

# 卒業生からのメッセージ

第8号をお届けします。今回紹介するのは本校松原由布子先生（化学）の妹さんである松原直子さんです。社会人1年生として教育関連の仕事に携わっています。

2015年度卒業生の松原直子です。現在私は塾の会社で高校生を対象に、映像授業の管理と事務の仕事に就いています。コロナ禍の中で仕事は限られていますが、毎日一生懸命働いています。

## ◇高校生の私

私は高校3年間教員か調理師になりたいという夢を持っていましたが、周りのように勉強ができるわけではなかったため、部活（書道部）だけでも頑張ろうと思って過ごしました。もともと習字を習っていたのと、字を書くことが好きだったので入部しました。部活の内容としては学外の展覧会や総文祭に向けて作品制作とその練習、自己研鑽をしていました。1年生の頃には夏に学校で泊まり合宿をし、2年・3年では下校時間ギリギリまで総文祭の作品制作と旭陵祭に向けて書道パフォーマンスの練習をした記憶があります。作品制作の際には思い通りの字にならなかつたり納得のいくものを出品出来ず悔しい思いをしたりしました。

ですが、これらの体験はそれまで進路に迷っていた私に選択肢を与えてくれました。『悔しい』と前述しましたが、その気持ちは作品を完成させることで『達成感』に昇華することができると知ったからです。進路を確定させたのは3年生の旭陵祭が終わったころでした。それまではやりたいことが揺らいでいたので担任の高田先生に何回も相談していました。通っている習字教室の先生や岩田先生から書道を専門的に学べて教員の資格も取れる大学を教えてくださいました。入試は実技だったので部活を引退したあとも後輩たちに交じって岩田先生に教えてくださいました。合格した後も定期的に見てもらっていました。

## ◇大学時代

大学では全国から来た同級生とともに技術を磨き作品制作に精を出しました。また年度の途中や末に展覧会を開催していたので、人と協力することや全体をまとめて動かす力を学ぶことができました。私のいた学年は時に分裂していたので、そのなかで人と協力することはとても大変なことでした。



旭陵祭(文化の部)書道部展示コーナーにて

昨年は教育実習生として母校である中津高校へ戻ってきました。私が在学していた頃からいらっしゃる先生や他の実習生も知っている仲間だったのでかけがえのない実習期間を過ごすことができました。実習生として授業をしたり、当時の担当クラスの生徒たちと関わったりしていくなかで教育にかかわることにやりがいを感じました。しかし、就職活動と教員採用試験の勉強をしている時に、果たして自分が教員としてどんなことを生徒に教えることができるかと考えたら、自分が教壇に立っている姿が見えなくなりました。それでも子供と教育に関わる仕事がしたいと思ったので現在の職に就くことに決めました。

## ◇私にとって中津高校とは

私にとって中津高校とは自分の人生において転機となる機会を与えてくれた場所だと思っています。在学中はただ勉強と部活とクラスメイトとおしゃべりをする為に通っていましたが、それ以外にも様々な事を学校では教えてくれました。とても大切にしたい場所です。

